

平成29年7月19日

「認知症サポーターキャラバン」

都道府県事務局 担当課 御中  
市町村事務局 担当課 御中  
企業事務局 担当課 御中

特定非営利活動法人  
地域ケア政策ネットワーク  
全国キャラバン・メイト連絡協議会  
代表・菅原 弘子

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の数値目標の更新等に伴う  
変更について

「認知症サポーターキャラバン」事業につきましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成29年7月5日に開催された「第6回認知症高齢者等にやさしい地域づくりに係る関係省庁連絡会議」において認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の数値目標の更新等が発表されました。これに伴い、下記についてご協力をお願いいたします。

1. 認知症サポーターの養成目標について

平成28年度末時点ですでに前倒しで目標を達成している認知症サポーターについては、下記の通り目標数に変更されています。

自治体における目標設定の参考とさせていただきますようお願いいたします。

【認知症サポーターの養成目標】

800万人(平成29年度末) → **1,200万人(平成32年度末)**

2. 認知症サポーター養成講座における認知症サポーターの活動事例の紹介について

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では、新たに下記の内容が示されています。

- 自治体(都道府県・市区町村)が認知症サポーター養成講座受講者を把握するとともに、
- 認知症サポーター養成講座において認知症サポーターが地域でできる活動事例等を紹介することや
- ステップアップ講座(認知症サポーター養成講座を修了した者が復習も兼ねて学習する機会)を設け、座学だけでなくサポーター同士の発表・討議も含めたより活動につなげるなど、地域や職域の実情に応じた取組を推進していく。
- また、認知症の人と地域に関わることが多いことが想定される小売業・金融機関・公共交通機関の職員に認知症の理解を深めてもらうため、認知症サポーターについて、周知し、受講を勧めることにより、認知症に気づき、関係機関への速やかな連絡等、連携できる体制整備を進める。

つきましては、今後開催される「認知症サポーター養成講座」においては、ぜひ、認知症サポーターの活動例等をカリキュラムに組み入れてくださいますようお願いいたします。

なお、キャラバン・メイト養成研修においても認知症サポーターの活動例等を必ずお話しくださいますようお願いいたします。(別紙1,2 カリキュラム参照)

※今後、開催分のキャラバン・メイト養成研修の研修セット発送時には、『認知症サポーター ステップアップ講座 教材 3 認知症サポーターの活動事例』を講師の参考用として1部お送りしますので、講義の参考としてください。

## 【参考】

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて  
平成29年7月5日 改定 新旧対比表 より抜粋

1. 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- (2) 認知症サポーターの養成と活動の支援

(改正前) 【認知症サポーターの人数(累計)】 (目標引上げ)

2014(平成26)年9月末実績 545万人 ⇒ 2017(平成29)年度末 800万人  
\* 近年の養成動向を踏まえ、2017(平成29)年度末600万人の目標を800万人に上方修正。

↓

(改正後) 【認知症サポーターの人数(累計)】 (目標引上げ)

2016(平成28)年度末実績 880万人 ⇒ 2020(平成32)年度末 1200万人  
\* 近年の養成動向を踏まえ、2020(平成32)年度末の目標を1200万人に設定。

(改正前)

○ 具体的には、地域や職域などで行われている創意工夫を凝らした様々な先進的な取組事例を全国で紹介していくことで、新たな活動へと繋げていく。また、地方自治体等が認知症サポーター養成講座を修了した者を把握するとともに、認知症サポーター養成講座を修了した者が復習も兼ねて学習する機会を設け、座学だけでなくサポーター同士の発表・討議も含めたより上級な講座など、地域や職域の実情に応じた取組を推進していく。

↓

(改正後)

○ 具体的には、地域や職域などで行われている創意工夫を凝らした様々な先進的な取組事例を全国で紹介していくことで、新たな活動へと繋げていく。また、地方自治体等が認知症サポーター養成講座を修了した者を把握するとともに、認知症サポーター養成講座の際に認知症サポーターが地域でできる活動事例等を紹介することや、認知症サポーター養成講座を修了した者が復習も兼ねて学習する機会を設け、座学だけでなくサポーター同士の発表・討議も含めたより活動につなげるための講座など、地域や職域の実情に応じた取組を推進していく。

○ また、認知症の人と地域で関わる人が多いことが想定される小売業・金融機関・公共交通機関の職員に認知症の理解を深めてもらうため、認知症サポーターについて、周知し、受講を勧めることにより、認知症に気づき、関係機関への速やかな連絡等、連携できる体制整備を進める。

(改正前) 【認知症サポーター養成講座を修了した者が復習も兼ねて学習する取組の推進】 (新設)

2015(平成27)年度 学習手法の見本について検討  
⇒ 2016(平成28)年度～ 地域や職域の実情に応じた取組を推進

↓

(改正後) 【認知症サポーター養成講座受講者の地域の実情に応じた活躍を支援する取組の推進】 (修正)

～2017(平成29)年度 認知症サポーター養成講座受講者が復習も兼ねて学習する取組の推進  
⇒ 2018(平成30)年度～ 地域の見守り支援等の担い手として、認知症サポーターの活躍の好事例を普及するとともに、広域での見守り支援活動の実施方法を検討

以上

担当：土屋

電話：03-3266-0551 FAX：03-3266-1670

〒162-0843

東京都新宿区市谷田町2-7-15

近代科学社ビル4F

caravanmate@orange.email.ne.jp

## 自治体 キャラバン・メイト養成研修 カリキュラム (パターン1)

内容	目的	標準時間	テキストの該当章
I オリエンテーション 1 研修主催自治体のキャラバン事業の取り組みについて 2 キャンペーンビデオ (15分) 3 認知症サポーターキャラバンとは 4 研修のねらい	①キャラバン、事業展開の趣旨を理解する。 ②自治体としての事業の位置づけの理解徹底。	30分	序章
II 認知症サポーターに伝えたいこと ○認知症を理解する 認知症とはどういうものか 認知症の症状 中核症状 行動・心理症状とその支援 認知症の診断・治療 認知症予防についての考え方 認知症の人と接するときの心がまえ 認知症介護をしている人の気持ちを理解する	①認知症サポーター養成講座でサポーターに伝える内容について学習する。 ②認知症とはどういう病気なのか、認知症の人や介護をしている人をどう支援したらよいかを理解する。	120分	第1章
III 認知症サポーター養成講座の運営方法 1 認知症の人を地域で支える  <u>グループワーク①</u> こんなとき、どこにつなげたらいいか考えてみよう  ○地域ケアシステムで支える SOS便利帳をつくろう 地域包括支援センター、地域の社会資源をおさえる	①認知症の人を地域で支える視点。 ②認知症の人の助けになる地域の社会資源やネットワークをおさえる。	25分	第3章
2 キャラバン・メイトの役割と講座運営の実際 ○各地のサポーター講座の様子(適宜) ○サポーターの活動事例	全国各地の講座についての紹介。(住民、職域、学校) サポーターによる活動例等を紹介。	20分	第2章 ・ 第4章
○サポーター養成講座の企画・運営ポイント  <u>グループワーク②</u> 講座の展開に協力してもらえそうな機関等はどこだろう …講座の開催先を考える	①キャラバン・メイトの役割の理解とサポーター養成講座の対象者の検討。 ②サポーター養成講座を展開するうえで協力してもらう機関の洗い出し。 ③グループワーク②③の中で、認知症サポーターとしてできること(第2章該当)を押さえる。	150分	
<u>グループワーク③</u> 受講者に合わせたカリキュラムをつくってみよう	①サポーター養成講座の運営方法を確認する。 ②サポーター養成講座の企画や講座のポイントについて理解する。 ③サポーター養成講座受講対象者別カリキュラムの作成。		
IV 事務連絡 キャラバン・メイト登録について アンケート回収 オレンジリング・修了証 授与		15分	

※休憩時間を適宜はさむ

計 360分 (6時間)

## 自治体 キャラバン・メイト養成研修 カリキュラム (パターン2)

内容	目的	標準時間	テキストの該当章
I オリエンテーション 1 研修主催自治体のキャラバン事業の取り組みについて 2 キャンペーンビデオ (15分) 3 認知症サポーターキャラバンとは 4 研修のねらい	①キャラバン、事業展開の趣旨を理解する。 ②自治体としての事業の位置づけの理解徹底。	30分	序章
II 認知症サポーターに伝えたいこと ○認知症を理解する 認知症とはどういうものか 認知症の症状 中核症状 行動・心理症状とその支援 認知症の診断・治療 認知症予防についての考え方 認知症の人と接するときの心がまえ 認知症介護をしている人の気持ちを理解する	①認知症サポーター養成講座でサポーターに伝える内容について学習する。 ②認知症とはどういう病気なのか、認知症の人や介護をしている人をどう支援したらよいかを理解する。	120分	第1章
III 認知症サポーター養成講座の運営方法 1 サポーター講座の講義内容例  サポーター講座の内容のポイントを確認しよう	標準教材に準拠した標準的講座用スライドの活用法を説明。 ※スライドは協議会より提供のものを使用	25分	第1章
2 キャラバン・メイトの役割と講座運営の実際 ○各地のサポーター講座の様子(適宜) ○サポーターの活動事例	全国各地の講座についての紹介。(住民、職域、学校) サポーターによる活動例等を紹介。	20分	
○サポーター養成講座の企画・運営ポイント  グループワーク① 講座の展開に協力してもらえそうな機関等はどこだろう …講座の開催先を考える	①認知症の人を地域で支える視点。 ②認知症の人の助けになる地域の社会資源やネットワークを確認する。 ①キャラバン・メイトの役割の理解とサポーター養成講座の対象者の検討。 ②サポーター養成講座を展開するうえで協力してもらおう機関の洗い出し。 ③グループワーク②③の中で、認知症サポーターとしてできること(第2章該当)を押さえる。	150分	第2章 第3章 第4章
グループワーク② 受講者に合わせたカリキュラムをつくってみよう	①サポーター養成講座の運営方法を確認する。 ②サポーター養成講座の企画や講座のポイントについて理解する。 ③サポーター養成講座受講対象者別カリキュラムの作成。		
IV 事務連絡 キャラバン・メイト登録について アンケート回収 オレンジリング・修了証 授与		15分	

※休憩時間を適宜はさむ

計 360分 (6時間)